

文教厚生委員会議会報告会報告書

報告日：平成28年9月12日

テーマ		子育て支援について
出席者	相手方	一般市民 (計18名)
	議会側	赤木委員長、玉川副委員長、貞岩委員、重森委員、大谷委員 重光委員、加根委員
開催日時		平成28年7月26日(火) 19:00～20:40
開催場所		八本松地域センター ホール
実施内容報告	意見交換	I. 乳幼児等医療費支給について
		【相手方意見】 ①子どもの医療費の中学校卒業まで無料化を目指し署名を集めた。討議に時間を割いていただき、中学校卒業まで入院だけは無料になった。市民からの声は大変良い評価であった。議会が身近になった気がした。 ②中学校卒業までの入院費無料化の財源は580万円なのに、『くらら』は維持費が2億円以上かかると聞いている。もっと市民の声を聞いて改善していただきたい。
		【議会側意見】 ①医療費無料化について、少しではあるが形になってよかった。しかし、全国的に見てまだまだ遅れている。今後完全無料化に向けて頑張っていく。 ②市民からもっと声をあげていただきたい。声をあげていただければ、議会で取り上げることができる。
		II. 発達障害への対応について
		【相手方意見】 ①発達障害について、小学校では専門員一人をつけているが、中学校については専門員がいないのが心配である。中学校は義務教育であり、子供たちには一緒に教育を受けさせたい。中学校での専門員の登用をお願いしたい。
		【議会側意見】 ①発達障害児に対して、東広島市ではきめ細かい対応をしている。こども家庭課に率直な意見を述べて欲しい。また、発達障害については、早期発見、早期治療。乳幼児から取り組むべきである。毎年、予算づけのとき必ず問題になっており、今後も執行部に対して申し入れていきたい。

IV. 待機児童について

【相手方意見】

- ①子育て支援員の活用により保育士不足を解消できないか。子育て支援員の認定を受けて、その制度を受ける方に補助を出していただきたい。また、保育士のための宿舍借り上げ制度が5年間となっているが、長く勤めていただくために抜本的な改善をしてほしい。
- ②学童保育の計画的な適正配置をお願いしたい。対処療法ではだめだ。

【議会側意見】

- ①保育士不足の解消については国の制度によるところも大きく、執行部に対応を求めながら、議会、執行部ともに国へも働き掛けていきたい。
- ②学童保育については、子どもの人数が多いところは十分でないことは認識している。執行部に引き続き働きかけていく。また、クラブごとの計画を作成し、市民に示せるように執行部に求めていく。

V. 八本松の認定こども園について

【相手方意見】

- ①市立認定こども園には3年以内に立ちのいてもらわないと立ち行かない。区画整理が進まない。

【議会側意見】

- ①認定こども園を所管する立場から、しっかり執行部に働きかけていきたい。

VII. 美術館建設について

【相手方意見】

- ①美術館を新設する必要があるのか。また、新設される美術館は市民の望んだものとなるのか。

【議会側意見】

- ①現在の美術館は、老朽化が激しく、収蔵品を収容しきれない等の問題があることから新設するもの。今後、美術館をつくるとするとどういうものが必要か、場所、設計の問題が示される。それを一つ一つチェックしていきたい。

要望・提言等

【相手方から】

- ①『くらら』で重たいドアを開閉する際に、指を骨折した市民の方がいると聞いた。対応してもらいたい。
- ②八本松町宗吉で、学童通学路において雨が降ると雨水が溢れて問題となる場所があり、迂回ができず安全指導員が背負っ

		<p>て対応した。民地だから、住民自治の窓口がなく困っている。どうやって、学童の命を守ってくれるのか。</p>
		<p>【議会側から】 ①抜本的なことを取り上げて、執行部に対していきたい。 ②問題の場所についてはわかる。経緯も含めて、執行部へ確認し対応していきたい。</p>
<p>その他 特記事項</p>		